

# 語学学校英語スピーキングクラスにおける 学習者の意識調査

津 田 信 男

## 1. は じ め に

近年ますます国際化が進み、社会一般では外国語（特に英語）のコミュニケーション能力の必要性にせまられている。（田中1994）しかしながら中学、高校で、6年間英語の勉強をしているにもかかわらず、英語を母国語としている人達と自分の言いたいことを満足に話せない者が多いのが現状のようである。

一方、街の英会話学校で学習し、英語のコミュニケーション能力を高めたいと思っている人も多くいる。今、全国には数千の会話学校があるが、具体的にどのような授業がおこなわれ、学習者がどのような意識を持っているか、などの調査はほとんど行なわれていない。この調査の目的は、ある大手語学学校の中級準備・中級学習者が授業（教授法、教材、講師）についてどのように感じ、どのような改善が必要かを把握するものである。これは語学学校のみならず、高校や大学などのオーラルコミュニケーションの授業を改善するためにも、参考になるはずである。

## 2. 受 講 生

調査対象の中級準備・中級レベル学習者は高校生、大学生、一般社会人が多く、特に中級レベルでは大学生、一般社会人の占める割合が多い。

## 3. 講 師

講師のほとんどは、TESOL（英語教授法）などの学位は持っていないが、この学校で採用された後、約50時間の基礎トレーニングの中で、学習者の特徴、教師のあり方、一般的な授業の教授法などの指導を受ける。また、各担当クラスの授業訓練も受ける。ネイティブ講師は大学卒業以上の者で出身地はアメリカ、カナダ、英国、オーストラリアが多い。中級準備、中級レベル担当の邦人講師は英検一級取得者かそれ同等レベルの者である。

## 4. 使用教材と授業形態

中級準備クラス：

担当講師A(ネイティブ)	: <i>Active Communication in English: Dialog</i>
担当講師B(邦人)	: <i>Active Communication in English: Listening</i> <i>540 Common Mistakes</i> <i>Speaking Strategies</i>

中級クラス：

担当講師A(ネイティブ)	: <i>News Articles</i> <i>All Clear</i>
担当講師B(邦人又はネイティブ)	: <i>Great Ideas</i> <i>Talk About Values</i>

中級準備・中級講師A, Bはそれぞれ週一回90分授業を担当している。中級準備クラスの教材, *Active Communication in English: Dialog* は, 当学校が1987年にノーショナル・ファンクショナルシラバスをベースに開発したものである。このシラバスでは, 発話者がある場面で何を伝えたいのかというコミュニケーションの目的に中心が置かれている。(Finocchiaro and Brumfit, 1983; Stevick, 1986) 例えば, ある買い物客が, 買った商品に欠陥があり, その商品を交換・払い戻しなどを求める際に, まずその商品をいつ購入し, どこが悪いのかを説明し, 交換・返金してもらうように言う必要がある。このような伝える目的を達成するために, 教科書では, それぞれ必要な機能を英語でどう言うのかを順序立てて教えていくのである。また, 学習者がさまざまな場所で, いろいろな物を説明できるような応用も取り入れている。

*Active Communication in English: Listening* は *Dialog* の教科書で学んだ機能語 (functions) を違った状況で聴き, 理解するのが目的である。例えば, *Dialog* のあるユニットでは, 自分の意見を述べる, 人の意見に同意する (agreeing), 同意しない (disagreeing) を学習し, リスニングでは, ニュースレポーターが街角で, 数人にアメリカの宇宙開発にお金をかけるのは賛成かどうかを聴き, その理由を尋ねている。学習者は, 教科書にある賛成か反対かのどちらかの欄にチェックし, 理由の欄にそれぞれの人が言っている理由を書き込む。各ユニットのリスニングのねらいは, 100%理解するのではなく (Brown and Yule, 1983) 大意をつかむことにある。

*540 Common Mistakes* は主に自宅学習用に作られたもので, 日本人の学習者が間違いやすい表現を指摘し, 正しい言い方が説明されている。講師は宿題として, いくつかの練習問題を与え, クラスで答え合わせを行なっている。

*Speaking Strategies* はいろいろな社会問題をテーマにディスカッションし, 最終的には描写, 比較例証法, 原因・結果などの英語的な文の構造を使って, パラグラフスピーチさせる教材である。

中級教材の *News Articles* は, 最近の英字新聞の記事をそのまま使い, 単語力, 表現力を養

い、いろいろなトピックにおいてディスカッション能力を高める教材である。

*All Clear* はアメリカでよく使われるイディオムを中心に会話の中でどのように使われているのかを理解させ、それを生徒が応用し、語彙力を高める教材である。各課ではトピックに沿った、20くらいのイディオムを紹介している。

*Great Ideas* はさまざまなアイデアを聞いたり、話したりしながら会話力を高める教材で、ロールプレイ、ディスカッション、problem solving などの task がある。教材のねらいは学習者が英語で間違えることを恐れず、自分のアイデアを述べるといった accuracy (正確さ) よりも fluency (流暢さ) に重点を置いている。

*Talk About Values* は簡単な task (絵を描写する、個人的な質問に答える) から難しい task (問題を解決する、ロールプレイを行なう、ディスカッションをする、自分の意見を述べる) などを通してスピーキング能力を高める教材である。

## 5. 調査方法

1994年6月から1995年3月にかけて全国約100校の中からアトランダムに19校を選び、調査する約1～2週間前に各学校担当者に調査目的を伝え、必要な生徒の人数(4～5名)を集めてもらうように依頼した。

## 6. 実施時間及び実施方法

授業前、授業終了後、またはカウンセリングの時間を利用して、一度に一クラスの生徒(1～5名)を約30分インタビューし、記録を正確に残すためにインタビューの内容をテープに録音した。

## 7. 質問の内容

- Q 1. 職業、当語学学校での学習期間
- Q 2. 教材の難易度
- Q 3. どの教材が気に入っているか。役に立っているか。
- Q 4. どのようなスキルを身につけたいか。
- Q 5. どのような練習をもっと増やしてほしいか。どのような練習を減らしてほしいか。
- Q 6. チームティーチングに関してどう思うか。一人の先生の方が良いか。どのような組み合わせの方が良いか。(例：邦人・ネイティブ、ネイティブ・ネイティブ)
- Q 7. 理想的な中級準備・中級クラスとは。
- Q 8. その他、クラスに対しての意見、感想など。

## 8. 結 果

## Q 1. 職業、当語学学校での学習期間

## 中級準備

職 業	高校生	大学生	社会人	主 婦	その他
人 数	4	15	21	1	4

## 中 級

職 業	高校生	大学生	社会人	主 婦	その他
人 数	3	19	18	5	4

## 中級準備

学習期間	0～1年	1年～2年	2年～3年	3年～4年	4年以上
人 数	12	17	8	4	4

## 中 級

学習期間	0～1年	1年～2年	2年～3年	3年～4年	4年以上
人 数	4	14	12	12	7

インタビューした中では大学生、社会人の受講者が最も多く、次いで高校生、主婦の順になり、平均的なクラス出席人数を尋ねると6～10名前後と答えた。

インタビューした生徒の平均学習期間は2年前後で、4年以上の学習者は小学校または中学校から始めている生徒であった。

## Q 2. 教材の難易度

中級準備クラスでは、全般的に *Speaking Strategies* が難しいと言う意見が多く「社会問題の内容が多いので日本語でも自分の意見を言うのも難しいのに、英語で自分の意見を言おうと思っても無理」「知らない単語も多く、内容も難しい」「日本語を英語で訳す所が難しい」「一回の授業では理解ができない。ディスカッションも難しい」「難しいのもあるし、簡単なものもある。興味のない分野であると話せない」「経験のないことについては漠然としか話せない」などトピック、語彙、内容の難しさについて指摘している生徒が多かった。

リスニングの教科書に関しては「スピードが早く、何回も聴かないとわからない」「早くてたまに聴き取れない」「聴き取りが少し難しい。何回か聴いてわかってくる」「リスニングは難しいが、あれくらいは聴けなければならない」「初めは難しかったが、しばらくすると慣れた」などスピードが早く、聴き取りが難しいと思っている生徒がいたが、あれくらいの難易度も必要であると考えている生徒もいた。

その他の教科書 (*540 Common Mistakes*) のレベルは「丁度よい」と答えた生徒が多かっ

た。

中級クラスでは全般的に教材のレベルは「適当」「丁度よい」との答えが一番多く、単語などが難しいけれど、これぐらいでいいと答えた生徒がいた。インタビューした中で一番レベルの高いと思われる教材は *News Articles* で「トピックによってディスカッションの内容が、日本語で考えても難しい」「質問内容が深い」「抽象的なディスカッションは英語で説明できない」「予習して来ないとわからない」など、トピックによっては難しく感じられるものがあるようだ。しかし「難しいけど、そのくらいのレベルの方が自分のためによい」「難しいけれど知らない単語が覚えられるのでよい」という意見もあった。

### Q 3. どの教材が気に入っているのか。役に立っているのか。

中級準備クラスでは *540 Common Mistakes* と *Listening* と答えた生徒が一番多く、理由を尋ねると *Common Mistakes* は「ニュアンスの部分で役に立つ」「自分の英語の間違いがよくわかる」「内容が細かく分かれているので見やすい」「答えが付いているので持っていて便利」「きれいな英語を話すためには役に立つ」「解説があるので日本的でわかりやすい。ネイティブのクラスではそういう点で不足している」「覚えればすぐ使うことができる」「TOEIC を受けたときに似たような問題があった」「受験生の立場からこういうものがよくでる」など自分の間違いを指摘することができ、すぐ使える表現があり、テストなどに役立つと考えている生徒がいた。

*Listening* では「毎回違った exercise なので」「リスニングは楽しい。学習用テープを使うとかなり力がつく」「英検などのために耳が慣れるという点でいい」「内容がいい」「リスニングが弱いのでレッスンしてくれるのはうれしい」「ここに入ってきた時はリスニングが一番嫌いだ。毎日ダイアログ・リスニングテープを聴いて寝る。一年間やって大部わかってきた」「何回か聴かないとわからないが、自分のリスニング力を高めることができる」「家でリスニングしようとしても衛星放送、二か国語放送など答えがわからない。リスニングテキストがあれば、後から細かい先生の解説が付いているし、自分の聞き方ではどこが間違っていたかチェックできる」など内容がよく、リスニング力を高めるので気に入っている・役に立っていると感じている生徒が多かった。

*Dialog* は「学校の文法英語ではない会話を習いたいので、会話らしい英語が学べる」「基本的な言い回しがある」「会話を想定してやっているので入りやすい」「面白い内容が多い」「いろいろな会話ができる」「使えそうな単語がある」「いろいろな問題を繰り返して、自分たち独自の話題でペアプラクティスするのが楽しい」「いろんな使い回しが覚えられる。自分がしゃべりたいときにいろいろな表現がある」などがあつた。

*Speaking Strategies* は「summarize するのはすごくよい。自分の持っている英語で、表現し直すのは自分で英語をものにしていく証拠」「社会問題を取り上げているので参考になる」「ディスカッションはよい」「中級に向けての準備としてはよい」「教科書の目的がよくわからない」などの意見があつた。

中級クラスでは *All Clear* と *News Articles* と答えた生徒が多かった。理由を尋ねると *All Clear* は「会話の中で使えるものが多く、使いやすい」「自分の語彙が増える」「口語的な表現が多い」「すぐに使えるから」「日常生活に役立つし、英語で単語の意味が説明されている」など、*All Clear* は実践的ですぐに役立つ表現が多いようである。*News Articles* は「単語や文を読む力がつくし、一冊をこなすことによって、いろいろなことを学ぶことができる」「日常会話を飛び越えてもっと知的な会話ができる」「ディスカッションの内容が沢山あり、みんなの考え方がわかり勉強になる」「今の記事を教科書にしている。身近なことや新しいことを知ることができて、面白い」「最近の話題が学校（大学英文科）で行なっているときに役に立ち、そのトピックについて言いたいことが言えるようになる」など語彙、読解、表現力が身につく、いろいろなトピックについてディスカッションできるようである。

他の教科書については「*Great Ideas* のリスニングが役に立つ」「*Great Ideas* はやっていて楽しいし、話す機会が多い」「*Talk About Values* と *Great Ideas* は想像力をつけるのに役に立つ」「*Talk About Values* は質問に答えているだけであまり身につけている気がしない」「*Talk About Values* の目的がよくわからない」「クラスでは *Great Ideas* と *Talk About Values* の人気がよくない」「*Talk About Values* と *Great Ideas* はパターンが似ているし、かけ離れた話題が多い」などの意見があった。

#### Q 4. どのようなスキルを身につけたいか。

中級準備クラスでは、どのようなスキルを身につけたいかとの質問に対して「スピーキング能力を高めたい」「語彙と表現力」「語彙力を付けて自分の話したいことを正確に伝えるようになりたい」「長文読解と会話を身につけたい」「もっとすらすらと言いたい」「自分の思っていることを言いたい」「こちらから話題を作って話す会話術を身につけたい」「リスニング。聴けなければしゃべれないため」「日本人同士ではなく、外国人に通じる発音、単語、文法力、表現力を付けたい」「日本人ではわからないニュアンスを理解したい」などスピーキング能力を高めるために必要な語彙力、表現力、リスニング力を身につけたいという意見が多かった。

中級クラスでは、「言いたいことが言えるようになるために語彙を増やしたい」「日本語的な英語ではなく、英語を母国語とする人達が使う文に慣れたいし、そのように話したい」「発言を流暢に、自分の意見をスムーズに言えるようにしたい」「スムーズにしゃべれるようになりたい。表現力、英文法も身につけたい」「相手の言っていることと同じぐらいに自分も言い返せるようになりたい」「会話をうまく展開できるようになりたい」「会話力を伸ばしたいし、話題を増やしたい」「社会的な知識を英語で身につけたい」「簡単な文で話してしまうので、もう少しレベルアップしたスピーキングをしたい」「内容のあることを話し、いろいろなことの知識を身につけて成長したい」「リスニング力を付けたい」など中級といえども自分の言いたいことをスムーズに口に出して話すことが出来ない生徒が多いため、語彙力、表現力、会話力、リスニング力を身につけたいという意見が多かった。

Q 5. どのような練習をもっと増やしてほしいか。どのような練習を減らしてほしいか。

クラスで行われる練習に関して、中級準備クラスでは「外人と話す機会が少ない。ペアーだと日本人同士なので自分たちのしゃべっている英語が合っているのか、間違っているのかわからない」「ネイティブの先生ともうちょっと話をしたい」「生徒が話す機会をもっと多くして欲しい」「人数が多いから仕方がないかもしれないが、ペアープラクティスが多すぎる」「適切な表現がどうなのか教えて欲しい」「文法表現などを覚える練習を少し入れる」「基本パターンを暗記する」「初級の時は本を見ないで話させる練習が多かったが中準ではない。本を見ながらの会話になっている。もう少しきびしく暗記させることをして欲しい」「テーマを与えられ、自分でそれを準備し、グループディスカッションなどを行なう」「単語を学びたい」「日常会話で使える実践的な表現を教えて欲しい」「教科書で習ったことを応用する機会が欲しい」「Dialog の set 1 をもっと応用する時間をかけて欲しい。今は set 1 だけで終わっている」「進度が速くて復習がない」「教材の量が多い。先生がこなすのにやっと。もっと一つのことに時間をかけて欲しい」「発表する場がない。自分たちのペアーだけでは他の人達はどうかかわからない」「*Speaking Strategies* にもっと時間をかけてわかりやすくして欲しい」「*Speaking Strategies* の expressions のところを減らして欲しい。会話というよりも学術的。この会話を覚えるのは大変」「*Speaking Strategies* のテーマが大きい割には費やしている時間が少ない」「リスニングを毎回やって欲しい。時間がないので *Speaking Strategies* だけをやっている」「*Common Mistakes* は答えがあるので家でもできる。あまりクラスでやらなくてもいい」「*Common Mistakes* は別にクラスでやらなくてもよい。受験参考書のようなもの」などがあった。

ここで生徒の意見をまとめると、講師の費やしている教材の時間が十分ではなく、応用、復習や生徒の発言する機会、講師との対話が不足していると感じている生徒が多かった。また、授業で表現などを覚えたい生徒がかなりいた。

中級クラスでは、どのようなものをもっと増やしてほしいかとの質問に関して「同じクラスメンバーと話していると馴れ合いになってしまうので違う人と話したい」「自分の言いたいことが言えるように、表現力を増やせるような練習をする」「生徒同士で話すので、わかなくてもニュアンスで理解できる。先生との対話を増やして欲しい」「ペアープラクティスが多く、先生との対話が少ない」「グループ、先生を交えて授業を進める。先生にいろんな質問をして、話しをする時間を増やして欲しい」「もっと間違いを指摘して欲しい」「間違いを指摘し直して欲しい」「リスニングが中準の頃に比べて少なくなったので、増やして欲しい」「もっと生の英語（洋画など）を理解したい」「ダイアログや文を声を出して読む機会を多くして欲しい」「多少暗唱するものがあればよい」「きれいな英語を話したいので発音指導がほしい」「進むペースが速く、復習がないので、復習して欲しい」などがあった。また、*News Articles* のクラスではディスカッションする時間をもう少し増やして欲しいと思っている生徒が多かった。ある生徒は「ディスカッションに入るまでに時間の大部分が使われていて、最後の15分ぐらいでディスカッションをしてしまうのもっとディスカッションの時間を増やして欲しい」

と述べている。

減らして欲しい練習では「ペアプラクティスを減らして欲しい」「*News Articles* の読解の時間がもったいない。クラスで行なうリーディングの量を減らしてほしい」「答えが出ないような質問，発展しないような質問を減らして欲しい」「ティーチャートークが多い。*News Articles* は難しくてみんな発言できないので結局先生が話すようになる」などがあつた。

スピーキングに関しては，もっとペアプラクティスを減らし，先生との対話を求めている生徒が多く，自分たちの言っている英語が正しいかどうか，先生にチェックして欲しい生徒がいた。また，中級では声を出して行なう練習がほとんどないため，中準でおこなったようなダイアログ形式の反復練習などを行なつて，発音能力を高めたい生徒もいた。

リスニングは，やはり中準のときのような練習問題が今の教材では *Great Ideas* (少しあるだけ) 以外は全然ないので，テープ・ビデオを使ったリスニング練習を求めている生徒が何人かいた。

**Q 6.** チームティーチングに関してどう思うか。一人の先生の方が良いか。どのような組み合わせの方が良いか。(例：邦人・ネイティブ，ネイティブ・ネイティブ)

中級準備クラスでは，ほとんどの生徒が現状のシステム (邦人・ネイティブ) のチームティーチングに満足している。邦人講師のメリットとして「細かいニュアンスの所は日本語で聞いて，英語に直してもらえる」「細かい質問は日本語でないとできない」「日本人のこの点がわからないだろうというところを指導してくれる」「日本人の弱い所がわかっている邦人の先生に教えていただくとポイントがわかる」「いろいろ相談ができる」「文法的なことを質問できる」「文法的なことをたまに日本語で言ってくれる。英語では理解できないので，文法は日本人の方がよい」などがあつた。

ネイティブ講師のメリットとして「自分の英語が通じているかがわかる」「英語でないとしゃべられないという状況になるのでよい」「基礎，初級の際はネイティブが月1回だけだったのでコミュニケーションがうまくとれなかったし，しゃべらないで終わっていた。日本人の先生では日本語で聞いたりして甘えがあつた。今の状態であれば日本語をしゃべっても通じないし，自分で英語をしゃべろうと努力をする」「しゃべろうとする意欲が湧いてくる」「ネイティブの先生に教わらないと発音の細かいところがわからない」「英語を話すからには思考過程を英語的にしなければならない」「自分の発音や悪い表現の仕方 (そんな言い方をしないなど) を直してくれる」「場面に合った適切な表現が学べる」などがあつた。

中級クラスでは，まずここでは一人と二人の先生ではどちらが良いかとの質問に対して，大半の生徒は「二人いた方が教わることが違うから良いし，面白い」「慣れた一人の先生だと英語が聴きやすくなるので，違った先生から授業を受ける方がよい」「違った先生の方が良い。もし嫌な先生に当たったら困る」などと答えた。

次に邦人・ネイティブとネイティブ・ネイティブとのどちらの組み合わせが良いかとの質問に対して，ほとんどの生徒が今のまま (関西地区：邦人・ネイティブ，関東地区：ネイティ



ブ・ネイティブ)が良いと答えた。理由は中準と良く似ていて、邦人講師のメリットとして「日本人の先生は自分の言いたいことや表現を英語での言い方で教えてくれる」「邦人だと日本人がしやすい間違いを良く知っていて、そこを正してくれる」「文法を細かく教えてくれる。ネイティブは細かい文法の指摘をしない」「生徒がどういう所をつまずくかわかっている」など邦人の先生の方が生徒の弱点やニーズ、学習目的をもっと理解しているし、日本語がわかるために良いと考えている。

ネイティブ・ネイティブの方が良いと答えた生徒は「せっかく英会話を習いに来ているので両方ネイティブの方が良い」「外国人に慣れるという点でネイティブは貴重だと思う」「このレベルではネイティブの方が良い。自分の言っていることが正しいかどうか確認できる」「甘えない環境でどうしても英語を話さなければならない」「日本人の先生だと頼ってしまうので、英語で話さなければならない方が良い」「ネイティブが違った国の先生なら違った英語が習える」など英語の環境にもっと居て、英語力を高めたいと思っているようである。

その他「先生によりけりで、一概にはどちらがよいか言えない」「性格の合う先生であれば邦人であろうとネイティブであろうとかまわない」などの意見もあった。

#### Q 7. 理想的な中級準備・中級クラスとは。

この質問に関して中級準備クラスでは「人数は10名前後。活気があり、まとまりのあるクラス。いろんな年齢層がいた方が、いろんな意見が聞ける」「明るいクラス」「みんなが予習してくる」「人数が5名くらいでないと先生が目が行き届かない」「来れない時は補習チケットのようなものがあればいい。今は休んでしまったらまるまる損になる」「授業料がもっと安くなればいい」「もう少し発表の機会が多ければよい。発表したときに先生に間違いを直してもらおう」「できれば高校生と学びたくない」「生徒のレベルが合っているクラス」「みんなで英語で話せるような雰囲気のあるクラス」「初級で習ったことを活用する」「難しいことでもみんなが積極的な姿勢を持っている」「沈黙の時間がない」「先生が一人一人をわかろうとする。生徒に関心を持っている」「出席しやすい雰囲気のあるクラス」「間違っても大丈夫のような雰囲気」「やる気がでて、楽しく興味が持てるようなクラス」などがあつた。

中級クラスでは、この質問に対して、数名の生徒は「今のクラスが理想的だ」と答えた。理由として「人数が少なく（出席5，6名）、みんなが同じようなレベル」「週2回というのはよい。忘れないうちにまた来れる」「今のクラスに満足している」「雰囲気がベスト。7時40分の授業なので、いろんな人達に来てディスカッションして、いろんな考えがわかる」などがあり、小人数で講師が良く、クラスの雰囲気、レベルが一定していることが挙げられる。

他には「英語が飛び交うクラス。（沈黙がない）先生がクラスに話し掛けても、ちゃんと生徒が自発的に答えられるようなクラス」「出席率のいいクラス。クラス一人一人の関係が良い」「自分のレベルに合ったクラス。レベル差の少ないクラス」「人数が多すぎないクラス。6名くらいが良い」「英語に対して向上心のあるクラス。英語を勉強しようという熱心さ（やる気）のある生徒が集まっている。予習をみんなやってくるクラスと何もしないで話すクラスとは違

う」「楽しみながら英語を学ぶ」「なごやかな雰囲気での厳しいクラス」などがあつた。

#### Q 8. その他、クラスに対しての意見、感想など。

中級準備クラスではその他として「授業料が高く、学生には負担が大きい。英会話を習いたい友達がいるが、授業料のことを考えると薦めにくい」「初級から中級準備のレベル差が大きい」「レベルチェックをもっと慎重にやってほしい」「レベルの差を感じて、このクラスに来た時にやめようと思った。自分に合ったレベルで楽しく授業を受けたい」「受講する時間帯を選べない」「先生を選べない」「教科書を全部やらないのもったいない」「今は予習なしでやっている。(講師が予習をしないようにと言っている) 予習しないと授業が受けられないようにした方が自分にとって身につく。自分で意見を考えてきたり、単語をチェックしたりできる」「リスニングのスク립トが欲しい」「結果として形のなるものが欲しい。例：外で通用するもの (TOEIC など) で計って欲しい」などの意見があつた。

中級クラスでは、まず講師に関しては「個人個人に注意を払ってほしい。話しても先生は聞いていないことがある。先生もディスカッションに参加してほしい」「今回のネイティブの先生は良い。よく日本語を知っているが、日本語は話さない。間違つた英語を言っていると直してくれるし、授業は楽しい。こういう先生がいればいい」「もっと話す機会を増やして欲しい。ここには、しゃべりに来ているので、あまり語句とかの説明に長く時間をかけないで欲しい。読解するのに時間をかけすぎて終わる頃には話す機会がない」「授業がよいかどうかは先生によって違うので、先生次第」という意見があつた。

教材に関しては「一年間で終わるような教材を作って欲しい」「復習できるような教材 (テープ付き) で、後でもレビューしていけるようなものがあれば良い」「教科書の冊数が多く、存在感が薄い」「教材が残るのももっときっちり使って欲しい」「週2回4冊は多いので中途半端で終わってしまう」「中級準備はテープなどがあつたので、頭の中に残っているが、今はテープを使わないのであまり頭に残らない。テープを使って欲しい」など教材の多さや、テープの使用量の少なさの指摘があつた。また、教材の目的がはっきりわからないという意見もあつた。

授業に関しては「*News Articles* は以前、半年間受講したが、前のやり方がよかったし、ディスカッションする時間があつた。今は単語だけやって終わってしまい、単語を覚える機会があるが、それを使ってディスカッションすることが少ない。前は予習をしてこなれば駄目で、やらなければ授業についていけなかった。今は先生が予習をするなど言い、予習をしなくても言えるようになって下さいと言う。当然家庭学習をしなくなり、ただ授業を受けに来ているだけになってしまった」「ただ教材をさっと流しているだけで、あまり頭に残らない」「次の週にどこをやるか教えて欲しい。先生に聞いても教えてくれないので、予習ができない」「初級、中級では、かなり復習する機会があつたが、今は何か素通りしているだけのような気がする」「ゲームはやりたくない」などのような意見があつた。

## 9. まとめと今後の課題

中級準備では、まず教材の難易度ではかなり多くの生徒が *Speaking Strategies* はトピック、語彙、内容理解が難しいためにレベルが高いと思っている。これは今の生徒のレベルでは十分に使い切れない教材であるように思える。その他の教科書に関しては多少リスニングの教材が難しいと感じている生徒もいたが、ほとんどの生徒は丁度よいレベルと考えている。

気に入っている、役に立っている教材としては、生徒の間違いが指摘でき、すぐに使える表現がある *540 Common Mistakes* の人気が一番高かった。これは中級受講者にインタビューした時に、単語、イディオムの教科書 *All Clear* の評価が高かったのとよく似ている。つまり学習者にとって目的がはっきりしていて、使いやすい教材を好む傾向にあるように思われる。ただ *540 Common Mistakes* に関しては答えや十分な日本語解説があるので、わざわざクラスで時間をかけなくてもよいという意見が多数あった。リスニングは内容が面白く、リスニング力を高めるのでいいと言う生徒が多く、*Dialog* は使えそうな表現があり、会話ができるといった理由で気に入っている生徒がいた。また、何人かの生徒は社会問題が取り上げてあり、ディスカッションができるので *Speaking Strategies* はよいと答えた。これは生徒と講師、トレーナーまたは教材開発者との間にズレがあるように思われる。(Nunan, 1989; Widdows and Voller, 1991) この教材はあくまでもパラグラフ・スピーキング (いろいろな英語思考方法を取り入れてスピーチさせる) を目的としているが、実際の生徒からの反応は社会問題を取り上げたディスカッションの教材と思っているようであった。(多分ほとんどのクラスでの指導もディスカッションまでで終わっている。) このような目的のズレのせい、あるクラスでは「この教科書の目的がわからない」という指摘があった。

クラスの練習に関しては、講師の費やしている教材の時間が十分でなさそうで、応用、復習や生徒の発言する機会、講師との対話が不足していると感じている生徒が多かった。また、初級レベルで学習した時と比べ、本を閉じて覚えるという作業がなく、生徒の身につけたいスキルである語彙力や表現力を高めるような練習があまりないように思える。これは全体のカリキュラム、使用教材などを考慮にいれるべきであるが、学習定着を計るために何らかの対策を考えるべきではないだろうか。現状では教材をさっと流している授業で終わっているようである。

チームティーチングに関しては、中級準備では、ほとんどの生徒が現状のシステム (ネイティブ・邦人) で満足している。尚、中級レベルでは違った意見が聞かれた。特に関東地域では、ほとんどの中級クラスが2人ネイティブのペアであるため、違った英語、考えが聞ける、甘えがなくなるという理由でネイティブ・ネイティブを好んでいる生徒が多かった。おそらく中級レベルとなると生徒が英語で理解することにあまり困らず、邦人講師の必要性を感じないかもしれない。それに対して低レベル、中準くらいまでは邦人講師がいた方が文法的なことを聞いたり、言いたいことを英語に直してくれるなどの理由でメリットがあるようである。

理想的なクラス、その他に関する事で改善する必要があると思えるのは生徒のレベル

チェックである。現状では十分な口答チェックをしていないために、ペーパーテストでチェックしているだけで、今のままでは授業についていけなく、ドロップアウトする生徒や、レベル差があるのでクラスの練習（ペアプラクティスなど）にも影響し、学習目標を達成するのが難しくであろう。もっと信頼性の高い口答テストを作成、実施できるように考えていく必要がある。

中級クラスでは、教材の難易度は *News Articles* が難しいと答えた生徒が多く、他の教材は丁度よいと考えている生徒が多かった。教材で一番気に入っていて役立つものとしては *All Clear* と *News Articles* で、*All Clear* は会話にすぐ使える単語、イディオムが多く、*News Articles* は読解力、語彙力やディスカッションをする上で役に立っているようである。ただ、教材全体に関しては冊数が多く、中途半端で終わっているという意見が多く、全体的にバランスが欠けているのではないと思われる。また、内容についてもよく似通っているものが多いとの指摘があった。理想的な教材としてリスニングをもう少し強化し、語彙力、表現力、読解力を高めるような、バランスのとれたものを使用するのが望ましくであろう。

練習問題に関しては、生徒同士の会話（ペアプラクティス）を減らし、先生との会話を増やしたいと考えている生徒が多く、クラスに来て、ネイティブと話し、自分たちの間違いを指摘してもらい、英語力を高めたいと感じているようである。しかしながら、現状では生徒一人一人のアウトプットを最大限に生かすためにペアプラクティスが多く、人数の多いクラスでは、講師と生徒の対話は難しいように思われる。しかしグループなどで、講師が一つのグループに加わり、意見を言い過ぎて授業を独占し、生徒に話す機会を与えないようでは問題になるので気を付けた方がよいだろう。また、練習問題に関して、生徒は復習することや、リスニングを増やして欲しいと思っている。特に現状のカリキュラムでは linear（一つ終わればすぐに次に進む）になっているので、一年間の学習形態ではあまり望ましくなく、生徒が身についたと実感が湧かないのは当然である。

チームティーチングに関しては両地区（関東・関西）、今与えられているチームティーチングのやり方に慣れていて、そのシステムに満足していると考えられる。

理想的なクラスとはどんなクラスかとの質問に対して、小人数でクラスの雰囲気が良く、いい講師で、生徒のレベルが似ていて、やる気のあるクラスであると答えていた。確かに雰囲気が悪く、生徒同士のレベルが違っていると、ペアプラクティスが多いためレベルの高い生徒にはチャレンジがなく、反対に低い生徒であればフラストレーションがたまってしまおう。

最後に、この意識調査を通して生徒から教材、授業、講師、理想、ニーズなどについてさまざまな意見を聞き、語学学校の現状をかなり把握できた。これから学習者の英語力を高めるには、やはり生徒たちの意見も考慮し、改善を試みるよう学校側は努力すべきではないだろうか。よりよい授業の提供は、その結果として、学習者の語学向上に繋がるであろう。

## 参考文献

- Brown, G. and Yule, G. (1983). *Teaching the Spoken Language*. Cambridge : Cambridge University Press.
- Finocchiaro, M. and Brumfit, C. (1983). *The Functional-Notional Approach*. New York : Oxford University Press.
- Fragiadakis, H.K. (1993). *All Clear*. Boston : Heinle & Heinle Publishers.
- Jones, L. and Kimbrough, V. (1987). *Great Ideas*. Cambridge : Cambridge University Press.
- Nunan, D. (1989). Hidden agendas : the role of the learner in programme implementation. In R.K. Johnson (Ed), *The Second Language Curriculum*. (pp. 176-186). New York : Cambridge University Press.
- Schoenberg, I.E. (1989). *Talk About Values*. New York : Longman.
- Stevick, E. (1986). *Images and Options in the Language Classroom*. Cambridge : Cambridge University Press.
- 田中慎也 (1994). 「どこへ行く? 大学の外国語教育」三修社
- Widdows, S., & Voller, P. (1991). PANSI : A survey of ELT needs of Japanese university students. *Cross Currents* XVIII, 2.